

順位	通称名	応募者の命名理由	公募に応じた理由や同窓会に対する思い等々	応募者の卒業期と学科	得票数
第2位	相湘会(そうしょうかい)	昭和42年に相模工業大学同窓会が発足し、湘南工科大学同窓会と平成2年に変更になりました。 私は相模工業大学同窓会という名称には親しみを持っていた1人でしたが、時代の流れで湘南工科大学同窓会となり、同窓生も2万2千人を突破し、とてもうれしく思います。 そこで、これからも伝統ある「相模」の「相」と「湘南」の「湘」の文字をとり、よい伝統をひきつぎ、未来へ向け活躍をしていく同窓生がますます増えていくことを期待して「相湘会」と命名しました。	9月29日、事務局の山本さんにお電話したところ「通称名」がまだあまり集まっていないとききました。 同窓会会長の池田英治様や役員の皆様、そして「第50期記念祭」の実行委員長の加藤誠司様や実行委員の皆様のご苦勞に感謝しなければいけないと思い応募しました。 また、記念祭や同窓会総会の時にはできるだけ参加し、これからも同窓会に協力していくことを考えています。	第5期 機械科	20
		相模工業大学と湘南工科大学の同窓会であり、頭文字をとって相湘会としました。 また、湘南で相集うという意味を込めて、いつの日か学校のある湘南に皆が集まれば良いとの思いから決めました。	記念祭の活性化を図れるように参加しました。 同窓会への思いとのことですが、若年層の卒業生は学校に対する思いが低い昨今の状況であり、活動自体も大変な状況と感じています。企業で活躍されている方々が定年するなどの年を重ねた時に思い出す時代のこともありますので大きな活動をしていなくても思い出に浸れるような同窓会活動ができれば良いかとも思います。	第19期 機械科	
第3位	湘稜会(しょうりょうかい)	「松稜会」は鶴が丘や三重高校の同窓会組織として既に命名されている。 「湘友会」は湘南高校の同窓会として既に命名。 松稜祭実行委員会のHPによれば・・・「松稜祭の名前の由来は今から約50年前の大学開設当時、講内で募集したところ、当時は学校から海まで広大な松林があり、松林の一角を切り開いた場所にプレハブを建て、実行委員会が発足したことから松林の「松」と、「あるものの側」という意味がある「稜」とを掛け合わせて、松稜祭と名付けられました」・・・とあります。 現在の湘南工科大学キャンパス内では「松」というイメージを持つ景観ではありません。来年以降、大学の名称が湘南工科大学として変更された後の歴史のほうが長くなります。湘南工科大学と湘南の地を示す「湘」と学史を刻み続ける松稜祭の「稜」を合わせ、耳なじみのある「ショウリョウ」という音を踏襲し、あえて「松稜」とせず過去の歴史と新しく飛躍するイメージをあわせ持つ「湘稜会」と命名した。	他大学の同窓会活動報告からは大学、同窓会と卒業生との関係が、お互いに親しみやすいものである印象を受ける。卒業生が大学に訪問すること、同窓会活動に参加すること、在校生に情報を提供することが、組織や個人単位でごく自然に行われている印象を受ける。本大学、同窓会においてはまだまだその域に達していないが、第50期誕生を機会に卒業生にとって親しみやすくするためにどうするべきか考える必要があるのではないかと思う。他大学の広報から、同窓会組織力発揮の一因に「通称」があるのではないかと思うのである。例えば、「慶應大学「三田会」との通称があれば、「同窓会」というかしまった組織に属している(または活動している)という意識ではなく「三田会」という仲間の中で行動するという感覚で各卒業生個人が帰属意識を持っているのではないかと察する。本同窓会においても卒業生が本校のイメージを共有できるような通称を命名することにより多くの卒業生に親しみを与え、活発な同窓会活動につながることを期待したい。	第21期 機械科	18
		湘南工科大学の湘 湘南の湘 松稜祭の稜 そして同窓会の会 仲間と会いたいと思ひ会うを入れてみました。	私にとって、湘南工科大学での楽しい思い出や仲間との出会いに感謝して公募してみようと思いました。	第35期 材料科	

順位	通称名	応募者の命名理由	公募に応じた理由や同窓会に対する思い等々	応募者の卒業期と学科	得票数
第4位	飛湘会(ひしょうかい)	卒業生が各企業で飛躍し、活躍されている事、また、会として飛躍できるように「飛」の字を選んでいきます。「湘」の字は湘南工科大学からです。以前の相模工業大学の「相」も「湘」の字に含まれていると考えれば、良いと思います。	通称名が決まり、卒業生が母校と一緒に卒業した仲間と連携出来るような同窓会になれば良いと思います。	第35期 機械科	13
第5位	相輝会(あいきかい)	本学の始まりは『相模工業学園』であるため『相』という字を入れたいと思いました。『相』という字には『いっしょに。互いに。』といった意味も含まれているため、本学で出会った仲間が互いに切磋琢磨し輝いていけるような、そんな会であつたら良いなという思いを込めました。	非常勤講師等を経て現在は技術員として働かせて頂き、卒業以降も本学と常に関わりを持ってきました。しかしながら同窓会活動には殆ど参加することはなく、あまり良い卒業生とは言えないタイプでした。今回の提案をきっかけに、少しずつ同窓会への気持ちを深められたらと思い、応募を決意しました。	第39期 システムコミュニケーション科	6
第6位	恩想会(おんそうかい)	漠然とですが、恩師・恩人の「恩」を意味と音の響きで使いました。相模と湘南の漢字にある「相」を入れたかったので、それを踏まえて造りました。 Wikipediaより 恩は、すでに後漢時代の許慎の『説文解字』において、「恵(めぐみ)」という意味だと解説されていた。日本でも『日本書紀』や『古語拾遺』などでも「恩」は「めぐみ」「みうつくしみ」「みいつくしみ」などの読み方がされていた。		第28期 機械科	5
第7位	まつかど会	松稜祭の松稜は、通常は、しょうりょうと読む。意味は加藤実行委員長の提案と同じですが、読み方を代えることで、同窓会だよりなどの通称にも最適だと思うため。		第19期 情報科	3
	翔栄会(しょうえいかい)	世界に飛び立ち、繁栄する願いをこめて(池田会長のお名前から1文字頂きました)	卒業生として出来ることは少ないですが、後輩諸君の活躍を期待して頑張っていきます	第25期 機械科	